特集

子どもを育てる地域の力

かつて日本では、農作業をはじめ地域のあらゆる作業が共同で行われていました。そこで地域の老若男女が顔見知りになり、地域の子どもは地域で育てるという形が自然にできていました。子どもたちは、あいさつをする、我慢する、年上の者が年下の者の世話をする、お年寄りを敬う、など社会生活のルールを地域の行事や日常のふれあいの中で自然に身につけていました。地域の力は、子どもの成長に大きな役割を果たしてきたのです。

ところが現在では、核家族化の進行、生活様式の変化などにより人々が地域で集まることが極めて少なくなり、地域共同体の機能が低下してきました。

いまの子どもたちは、地域での体験を通した社会生活のルールを学ぶことが少ないまま、家庭から学校へ行くようになりました。このことが、集団生活になじめない子どもや我慢できない子どもなどの増加の一因になっているといわれています。

今こそ、地域の力をもう一度見つめ直すときかもしれません。学校の中で、地域の中で行われている取り組みを追いながら考えてみましょう。